

生命いのちの言葉

平成二十八年十月

至し誠せい神かみを感かず

吉田松陰

裏面もご覧ください。

生命いのちの言葉
十月

まよいころは

神さまさえも感動させる

吉田松陰 (よしだしやういん)

文政十三年(一八三〇)〜安政六年(一八五九)。幕末の尊皇思想家。長門国(山口県)萩の出身で、明倫館の兵学教授として出仕。二十二歳の時に江戸に出て佐久間象山より蘭学を学ぶ。安政元年(一八五四)伊豆下田に停泊していたペリー艦隊に乗船を図るが失敗し、萩の野山獄に收監。その後叔父が主催していた松下村塾を引き継いで高杉晋作、久坂玄瑞等を育てた。しかし倒幕論を唱えるなどして再び投獄され、安政の大獄によって獄中で刑死となった。

栗の実のなる季節、ご参拝の皆さまに実り多きことを祈ります

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>

神社は心のふるさと
未来に受け継つぐごう
「美しい国うらわぶり」